

インターネットで公開する産総研データベース「日本の第四紀火山」

QUATERNARY VOLCANOES IN JAPAN, as an AIST database (RIO-DB) published via internet

中野 俊[1], 山元 孝広[2], 巖谷 敏光[3], 伊藤 順一[4], 高田 亮[1]

Shun Nakano[1], Takahiro Yamamoto[2], Toshimitsu Iwaya[3], Jun'ichi Itoh[4], Akira Takada[1]

[1] 産総研, [2] 深部地質センター, [3] 産総研・地質調査総合センター, [4] 地質調査総合センター・深部地質・長期変動

[1] AIST, [2] GSJ, DGERC, [3] GSJ/AIST, [4] GSJ, AIST

産総研 地質調査総合センター（旧工業技術院 地質調査所）では、ホームページ「日本の第四紀火山」（http://www.aist.go.jp/RIODB/strata/VOL_JP/）を公開している。空撮写真を含め、各火山の写真を豊富に収録していることが大きな特徴であり、文献一覧も表示される。現在は、日本語版のみが作成されている。「日本の第四紀火山」は、インターネットに接続するパソコンさえあれば Web ブラウザにより閲覧可能であり、「地層・岩体・火山」事典（<http://www.aist.go.jp/RIODB/strata/welcomej.html>）の一部を構成する。これは、産総研（独立行政法人 産業技術総合研究所）が多くの研究開発プロジェクトで蓄積された研究成果を幅広く普及する目的で公開している、多数のデータベース（研究情報公開データベース, RIO-DB）のうちの一つである。

「日本の第四紀火山」は、2000年9月に地質調査所から発行された CD-ROM「火山岩の産状 Ver.1.0」（数値地質図 G-4B, 火山岩の産状編集委員会編, 代表編集委員：鹿野和彦・山岸宏光・宇井忠英・小野晃司）に収録された“第四紀火山の分布”（編集：中野・巖谷・山元）をもとに作成されたデータ集である。インターネット上で公開するにあたり、さらに多くの画像を収録し、表示方法を変更し、記載項目を追加した。

収録されている火山は、北方領土を含む陸上の第四紀火山をほぼ網羅している。ここでは“一火山”、“火山群”の定義は厳密に行っておらず、文献等で記載されたその研究者の考え方をそのまま踏襲したり、あるいは、後カルデラ火山とカルデラ火山を分けるなど、全体を統一した見方で定義しているわけではない。また、海底火山については、噴火現象や変色水・熱水活動が観測されたものにほぼ限定している。現時点で、300個以上の火山が掲載されている。新たな研究に基づき削除あるいは追加される火山、分割される火山もあり、2002年2月時点で公開時よりも25火山、増加している。「日本の第四紀火山」の作成にあたっては、すべての火山を網羅することに第一の重点を置いた。そのため、各火山の詳細情報についてはほとんど未整備であり、今後の課題である。

各火山の記載項目は、火山の位置を表す緯度・経度、都道府県名、標高、国土地理院発行の地形図名（1/20万, 1/5万, 1/2.5万）、火山の形式（たとえば、成層火山、溶岩ドーム）、岩石の種類（たとえば、玄武岩、安山岩）、活動時期（たとえば、20万～5万年前）、噴火災害記録（たとえば、1998年ブルカノ式噴火：降灰）などである。CD-ROMに収録された“第四紀火山の分布”では258点だった収録写真は、2001年7月のWeb公開時で528点に増え、2002年2月末時点では697点となっている。火山の写真は、職業写真家も含め、これまでに所内外の52名から提供を受けた。当然のことながら、「日本の第四紀火山」に収録された写真はすべて撮影者（著作権者）による使用許可を得た上で使用している。そのほか、100点以上の地質陰影図（鳥瞰図）や地形陰影図、地形分類図などを収録している。地質陰影図は、地質調査所から発行された火山地質図および5万分の1地質図と国土地理院発行の数値地図50mメッシュ（標高）を用いて作成されたものであり、22火山について垂直および斜め方向からの陰影図が作成されている（2002年2月）。このホームページの内容は定期的に更新される。更新時には、新たな画像が追加されたり、最新の噴火記録が記入されていく。

「日本の第四紀火山」に、各火山ごとの文献一覧ファイルを追加した（2002年4月）。たとえば、桜島では1890年以降544件、富士山では1887年以降226件にもなる多数の文献（講演要旨も含む）が収録されている。これらは年代順に配列しており、文献数が多い場合は複数ページに分割されて表示される。これらの文献リストは、これまで地質調査所が発行してきた火山文献選集（1968年）や地質文献データベース（Geolis）、さらには各研究者が長年にわたり収集してきた文献などをもとに作成されたものである。この文献ファイルも今後、定期的に更新されていくべきものである。